

月刊 ととろ


 独立行政法人国立病院機構
 いわき病院

第199号

令和2年11月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

信条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します

第74回

国立病院総合医学学会に参加して

第74回国立病院総合医学学会は、会長：国立病院機構新潟病院院長 中島 孝先生、副会長：西新潟中央病院院長 大平 徹郎先生、さいがた医療センター院長 下村 登規夫先生、東京医療センター院長 新木 一弘先生等のご尽力により、テーマとして「先進的イノベーションと支える医療の融合求められる国立医療の構築～2020 ときを越えて～」を掲げ、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大の影響により、2020年10月17日（土）～11月14日（土）の4週間 Web 形式で開催されました。

特別講演として内閣府の Society5.0 の唱道者として活躍されておられる山海嘉之先生（筑波大学）に最新テクノロジーと人間社会について、医療用の Hybrid Assistive Limb（HAL）の話も交えたご講演が有りました。

当院の発表は6題でした。何れも Web 形式によるポスターセッションであり、第2病棟 馬上 晃一看護師が「重症心身障がい児者病棟における休日の療育活動の充実 ～患者さんの笑顔と看護師の充実感～」を、第3病棟 菅原 恵美看護師が「B病棟における身体拘束ゼロを目指した身体拘束適正化への取り組み～スタッフの認識と拘束実施時間の変化～」を、第3病棟 鈴木 美保看護師が「神経難病患者の在宅療養生活を支える要因」を、リハビリテーション科 小柳 穂運動療法主任が、「リハビリテーションにおける電子カルテ・部門システム・Excel を活用した効果の検討」を、リハビリテーション科 石川 翔遥理学療法士が「発症後長期間経過した脊髄性筋萎縮症に導入した HAL の効果」を、リハビリテーション科 樋口 雄一郎言語聴覚士が「パーキンソン病患者における転倒因子の検討 ―認知機能スクリーニング検査に着目して―」を、発表しました。

いつもと勝手の違った Web 形式でのポスター発表でしたが、この経験を生かし、内容を十分精査検討し、今後も研究を続けていって欲しいと思います。

今回の経験を活かし、次回はさらに数多くの素晴らしい研究成果が発表されることを期待したいと思います。

副院長：鈴木 栄

第74回
国立病院
総合医学学会

The 74th Annual Meeting of Japanese Society of National Medical Services
先進的イノベーションと支える医療の融合
求められる国立医療の構築～2020 ときを越えて～

2020年
10月17日(土)・11月14日(土)
Web開催

中島 孝 国立病院機構新潟病院 院長
大平 徹郎 西新潟中央病院 院長
下村 登規夫 さいがた医療センター 院長
新木 一弘 東京医療センター 院長

事務局：独立行政法人国立病院機構 新潟病院
〒951-8501 新潟市中央区南万寿町1-1-1
TEL: 025-272-2129

運営事務局：日本コンベンションサービス株式会社 東北支社内
〒980-0024 仙台市青葉区大森1-1-1
TEL: 022-233-1111 FAX: 022-233-1110 E-mail: kankoban@convention.co.jp
<https://site2.convention.co.jp/74nms/>

障害者虐待防止対策研修を実施して

今年度の障害者虐待防止対策委員会では、全職員参加の多職種カンファレンスを実施しました。病院全体で、より良いサービスの提供をめざし、患者さんの人権を尊重した態度について、考えていくことを目標としています。

事例は他施設で発生した障害者虐待につながる事例を選びました。カンファレンスの進行は、研修を受けた全部署から選ばれたコアメンバーが主体で行いました。進行では参加者全員が意見を言い合える雰囲気づくりを大切にしました。その結果、普段は患者に関わることがない職種からも率直な意見があり、参加者それぞれが障害者の人権について真摯に向き合う発言がありました。この研修を通して、多職種の専門性のある考え方をお互いに理解し合う機会となりました。実際に患者さんと接することが少ない部署からは「決められたルールだからいいだろうと思っていたが患者さんの立場になるとどうか、接する時に配慮する視点や意識が変わった」という感想が聞かれました。また患者さんに一番近くで関わる看護師からは、「普段、ものが言えない患者さんの表情や様子を読み取って、ケアしていることを他部署のスタッフにも理解してもらうことができ、とても良かった」という声が聞かれました。

このようなカンファレンスの開催は、病院職員全員が参加できるようにスケジュールリングすることが大変難しかったです。しかし委員会メンバー・コアメンバーの一人一人の協力があって実現することができました。現在までに6回実施し、スタッフ全体の59%が参加しています。今後も突然不参加となっても次回に出席できるように調整し、12月まで実施します。

また、障害者の虐待防止については、風通しの良い職場風土づくりが重要と言われます。今回のような取り組みを通して、患者さんにとって何が最善なのか、お互いに意見を言い合えることを大切に、障害者虐待防止対策研修を継続していきたいと考えています。

教育担当看護師長：相楽 初江



当院における感染防止に向けた取り組み



正面玄関受付



AIサーモカメラ



会議室



ラウンジ



外来待合スペース

当院では、新型コロナウイルス感染防止対策のため、様々な取り組みをしております。正面玄関では、検温スペース、AIサーモカメラを設置し院内に立ち入りする方に対して検温をしております。ラウンジ、外来待合スペースでは、イスの間隔を空け、仕切りを間に設置しました。会議室では、大人数で会議することもあるため、テーブルに飛沫防止ガードを設置しました。狭い空間となる診察室、言語聴覚療法室、相談室等には、空気清浄機を設置しました。その他にも感染防止対策のため、様々な取り組みを検討しております。今後も当院をご利用いただく全ての方の安心、安全を最優先に対策を考えて参ります。

経理係長：磯部 亮

研修医からの一言



はじめまして。仙台医療センターから2週間地域研修に参りました初期研修医2年次の、小谷 晴生と申します。出身は福島市で、福島県立医科大学を卒業しました。浜通りは暖かいイメージだったのですが、ここ数日は季節柄ぐっと冷え込み、やっぱり福島だなと感じています。研修では診察や各病棟の見学などをさせて頂いていきます。普段は3次救急の病院で研修していることもあり脳卒中はかなりの頻度でみているのですが、慢性期の神経変性疾患や特に重症心身障害者の方々などはほとんど初めてですので非常に勉強になります。検査や処置などの際には声を掛けて頂き、神経診察などもベテランの先生方に指導をして頂いて充実した研修を過ごせています。10月5日から10月16日まで2週間という短い期間であったという間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました。

初期研修医：小谷 晴生

